

ボランティア部会における検討結果
—東京 2020 大会に向けた取組みについて—

平成 30 年 9 月

1 はじめに

日頃から、新宿区内では、福祉、子育て、環境など数多くの分野でボランティア活動や地域活動が行われている。こうした活動は、少子高齢化や人口減少といった社会構造の変化の中で、今後さらに重要な役割を担うものと見込まれる。

一方、東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおいては、世界中の 200 以上の国・地域から数多くの選手や大会関係者、観客が東京を訪れる。1964 年の前回大会と比べ、大会の規模は格段に大きくなっており、大会の成功には、大会の最前線で活躍するボランティアの存在が欠かせない。最近のオリンピック・パラリンピックでも、ロンドン 2012 大会で約 7 万 8,000 人、リオ 2016 大会で約 5 万人ものボランティアが大会運営を担っており、大会の閉会式においてはそうしたボランティアの活躍をたたえるセレモニーが行われている。こうした中、今年 4 月～7 月に募集のあった 2019 年のラグビーワールドカップのボランティアでは、1 万人の募集に対して 3 万 8000 人を超える応募が集まっており、東京 2020 大会に向けては、さらにボランティア参加への関心が高まっていくものと考えられる。

東京 2020 大会における大会ボランティア・都市ボランティアは、オリンピック・パラリンピックに直接参加することのできる、またとない機会である。そこで得られた貴重な経験が、ボランティアとして大会に参加した方の中に「レガシー」として残ることにより、大会後においても地域のさまざまなボランティア活動の活性化につながることを期待できる。

さらに、東京 2020 大会の大会ボランティア・都市ボランティアのほかにも、さまざまなボランティアの活動機会を創出することにより、ボランティア活動を始める人を増やしていくことも重要である。このような取組みを通じて、地域のつながりや絆、交流が生まれ、より暮らしやすい地域社会づくりに寄与するものとする。

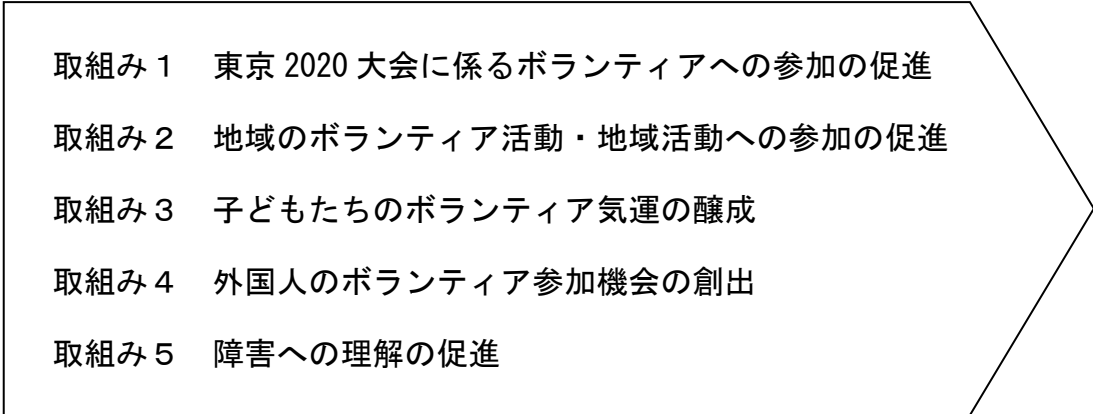
本部会では、こうした観点からボランティア気運の醸成に係る取組みについて検討を行った。検討の結果、取組みの方向性として 5 項目に整理したが、それらは相互に関連する内容となっている。このため、今後、取組みを進めるに当たっては、各団体と区が連携を図りつつ、総合的に推進していくことで、より一層効果的にボランティア気運の醸成が図られるものとする。

ボランティア部会
部会長 鈴木 章生

2 東京 2020 大会に向けた取組みの方向性

ボランティア部会では、多くの区民が東京 2020 大会関連のボランティアに参加し、ほかでは味わうことができない貴重な経験が得られるよう PR を図っていくことと併せて、こうしたことを契機として、地域で行われているさまざまなボランティア活動や地域活動のさらなる活性化につなげていく必要があるとの観点で検討を進めてきた。

さらに、将来を担う子どもたちへのボランティア気運の醸成の取組み、外国人住民が多いという新宿区の特徴を踏まえた取組み、パラリンピックの成功に向けた障害理解への取組みなどについても併せて議論を重ね、ボランティア気運の醸成に向けた取組みの方向性として、次の 5 つの項目に整理した。

- 
- 取組み 1 東京 2020 大会に係るボランティアへの参加の促進
 - 取組み 2 地域のボランティア活動・地域活動への参加の促進
 - 取組み 3 子どもたちのボランティア気運の醸成
 - 取組み 4 外国人のボランティア参加機会の創出
 - 取組み 5 障害への理解の促進

取組み1 東京2020大会に係るボランティアへの参加の促進

東京2020大会では、大会ボランティア及び都市ボランティア（東京都募集分）の2つを合わせて11万人ものボランティアの募集があり、大会の最前線で活躍するボランティアはまさに「大会の顔」となる。これらは、オリンピック・パラリンピックに直接参加することのできるまたとない機会であり、生涯の記憶に残る体験となるものである。

区民がこうしたボランティアに参加できる機会を逃すことのないよう、大会ボランティア・都市ボランティアの応募受付期間（平成30年9月中旬～12月上旬）にあわせて、それらの情報を十分に周知していかなければならない。

周知に当たっては、区と各関係団体がさまざまな方法により広く周知していく必要がある。また、単に活動内容や応募方法等を周知するだけではなく、ボランティアの実際の体験談や、ボランティアに参加するメリットなどの情報も積極的に発信していくことにより、ボランティアへの関心を高めていくことが望ましい。

具体的手法のイメージ

①各団体が発行する広報媒体への掲載などによるPR

（取組み例）

- ▶ 各団体の広報媒体（広報紙やホームページ等）を活用した周知・PR
- ▶ 各団体の会合や研修会などの場での周知・PR

②イベントを通じたPR

（取組み例）

- ▶ 地域センターまつりなど地域の行事を通じた周知・PR
- ▶ 過去大会のボランティア経験者の体験談を聞くことのできるイベントの開催

取組み2 地域のボランティア活動・地域活動への参加の促進

大会ボランティアや都市ボランティアは、一定の活動日数が設定されていることや、事前の研修等への参加が求められることから、参加へのハードルが高いと感じる人もいとえられる。大会ボランティアや大会ボランティアよりも気軽に参加できて、なおかつ東京2020大会にかかわりを持つことが実感できる活動の機会を設けることが望ましい。

東京2020大会を、ボランティアへの関心が高まる絶好の機会と捉え、この好機に、日常的に地域で行われているボランティア活動・地域活動のPRや、参加の促進に取り組む。こうすることにより、地域におけるボランティア活動・地域活動の一層の活性化を図っていく。

具体的手法のイメージ

①新宿区主催のイベント（気運醸成イベント等）の機会を捉えて、ボランティア気運醸成の取組みを実施する。

（取組み例）

- ▶ イベントの運営ボランティアを募集するなど、ボランティアの活動機会を設ける。
- ▶ イベントの中で、地域活動団体・ボランティア活動団体等がPRブースを出展し、来場者に日頃から地域で行われている地域活動・ボランティア活動への理解を深めてもらう。

②地域のボランティア活動・地域活動のうち、おもてなしに寄与する活動等について、東京2020大会に向けた取組みとして位置付ける

（取組み例）

- ▶ 地域の美化清掃活動や、地域の見守り活動などの取組みについて、東京2020大会に向けた取組みの一環として位置付ける。

取組み3 子どもたちのボランティア気運の醸成

大会ボランティア及び都市ボランティアには年齢要件（2002年4月1日以前生まれ）があり、小・中学生は参加できない。

しかし、東京2020大会が地元で開催されるこの機会を捉え、次世代を担う子どもたちのボランティアマインドが醸成されるよう、ボランティア体験の機会を提供していく。

具体的手法のイメージ

①各団体や区が実施するイベントや行事において、小・中学生等を対象としたボランティア体験プログラムを実施するなど、ボランティア体験の機会を提供する

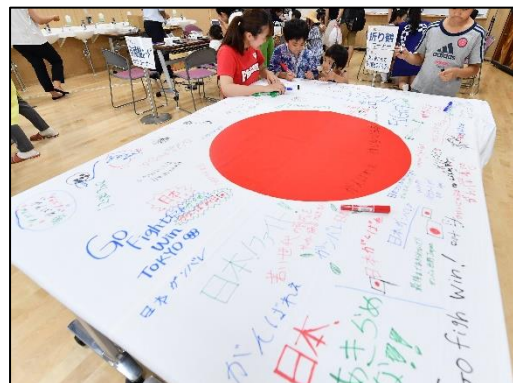
（取組み例）

- ▶ 区が実施する気運醸成イベント等において、子どもたちを対象としたイベント運営などのボランティア体験プログラムを実施する。
- ▶ 地域の美化清掃や打ち水などの活動において、子どもたちの参加機会をつくることにより、地域活動への参加気運を醸成する。
- ▶ 地域の魅力や課題を発見するフィールドワークや、外国人への道案内体験などの子ども向けの体験プログラムを通じて、子どもたちのボランティア気運の醸成を図る。

②各団体や区が実施するイベントや行事において、未就学児でも体験できる参加型コンテンツを実施する

（取組み例）

- ▶ みんなでつくるお絵かきや寄せ書きメッセージなど、簡単に参加できる体験を提供する。



東京2020大会777日前記念イベントでの「サッカー日本代表応援メッセージコーナー」の様子。▶

取組み4 外国人のボランティア参加機会の創出

新宿区は、人口の12%を超える外国人が住み暮らし、多くの外国人観光客が訪れるまちである。

大会ボランティア・都市ボランティアについては、それぞれ滞在資格や居住資格があれば応募が可能となっており、新宿区在住の外国人が活躍する絶好の機会である。

新宿区が持つ多様性を活かし、区内に住み、働き、学び、活動する外国人が地域社会の一員としてさまざまな地域活動やボランティア活動に積極的に参加し活躍する機会を創出する。

具体的手法のイメージ

- ①新宿区多文化共生連絡会などのネットワークを活用し、ボランティア活動に関する情報提供を行う
- ②多文化交流イベントや多言語の情報紙等において、ボランティア活動に関する情報提供を行う

取組み5 障害への理解の促進

2020年、東京は世界で初めて2回目の夏季パラリンピックを開催する都市となる。障害のある選手たちの圧倒的なパフォーマンスを直接観戦することができるパラリンピックの開催により、パラスポーツへの関心が高まることが想定されるほか、多くの障害者が観戦や旅行に訪れることも予想される。

こうした機会を好機ととらえ、障害理解に向けた取組みを一層推進する。

具体的手法のイメージ

①各団体や区が実施するイベント（各団体や区が募集するボランティア活動等を含む）においては、障害の有無に関わらず参加・参画ができるようなコンテンツを展開する

（取組み例）

- ▶ ダイバーシティウォールパズルアート（子ども、高齢者、障害者など誰もが参加でき、それぞれが好きな色を塗って一つの作品を完成させるもの）の実施

②パラスポーツ体験等の機会を通じて、競技の奥深さや競技者のパフォーマンスの素晴らしさを伝えるとともに、日常生活におけるサポートの仕方など新たな気づきを得る機会を提供する

（取組み例）

- ▶ パラスポーツ体験イベントの実施
- ▶ 障害者へのサポートのしかたを学ぶ講習会の実施

資料1 東京2020大会について

(1) 東京2020大会の概要

① 開催日程

オリンピック競技大会	2020年7月24日(金)～8月9日(日)
パラリンピック競技大会	2020年8月25日(火)～9月6日(日)

② 大会ビジョン

「スポーツには世界と未来を変える力がある。」

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。

2020年の東京大会は、

「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、

「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、

「そして、未来につなげよう(未来への継承)」

を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな変革をもたらす大会とする。

③ 新宿区内における実施競技

現在建設中の新国立競技場において、以下の競技の実施が予定されている。

オリンピック競技大会	陸上競技(競歩を除く)及びサッカー
パラリンピック競技大会	パラ陸上競技

また、オリンピックマラソン競技のスタート及びフィニッシュ地点も新国立競技場となっており、スタート直後とフィニッシュの手前は新宿区内(外苑西通り、靖国通り、外堀通り)を通るコースとなっている(下図のとおり)。

(図) 東京2020オリンピック マラソン競技コース図(組織委員会HPより)



(2) 大会ボランティア・都市ボランティア

東京 2020 大会における公式のボランティア制度としては、組織委員会が募集運営を行う大会ボランティア、及び東京都が募集運営を行う都市ボランティアがある。

平成 30 年 6 月 11 日に公表された募集要項によると、大会ボランティア及び都市ボランティアの概要は下表のとおりとなっており、いずれも平成 30 年 9 月中旬から 12 月上旬までが応募受付期間となっている。

(表 1) 大会ボランティア及び都市ボランティアの概要

	大会ボランティア	都市ボランティア
運営主体	組織委員会	東京都(競技会場を有する各開催自治体含む)
活動場所	・競技会場及び選手村、練習会場等の大会関係施設	・空港・主要駅・観光地 …観光案内、交通案内、大会インフォメーション、東京都の P R
活動内容	・観客、関係者の案内 ・競技運営サポート ・移動サポート(運転等) ・海外要人や選手のアテンド ・メディアのサポート など	・最寄駅から競技会場までの動線 …観客の案内、大会インフォメーション、観客の盛り上げ ・ライブサイト …来場者案内、運営サポート
募集人数	8 万人	3 万人
活動日数等	オリンピック、パラリンピックのいずれの場合もそれぞれ 10 日以上を基本(1 日 8 時間程度)	オリンピック・パラリンピックを通じて 5 日以上(1 日 5 時間程度)
応募要件	・2002 年 4 月 1 日以前生まれ ・日本国籍または日本に滞在する在留資格がある	・2002 年 4 月 1 日以前生まれ ・日本国籍または日本に居住する資格がある ・日本語で簡単な会話ができる
応募方法	ウェブ(個人単位)	ウェブ、F A X、郵送(個人または 4 名以内のグループ単位)
今後の日程	<ul style="list-style-type: none"> ・2018 年 9 月中旬～12 月上旬：応募登録 ・2019 年 2 月～：面談・説明会(オリエンテーション) ・2019 年 10 月～2020 年 2 月頃：共通研修(基礎知識の習得) ・2020 年 4 月～：役割別研修・リーダーシップ研修 ・2020 年 6 月～：会場別・配置場所別研修 	
提供される物品等	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニフォーム一式 ・ボランティア活動向けの保険 ・活動中の飲食 ・滞在先から活動場所までの交通費相当 	

資料2 新宿区におけるボランティア活動・地域活動の取組み

新宿区では多様な分野のボランティアが区内各所で活躍している。新宿区が募集している主な地域活動・ボランティア活動は下表のとおりとなっており、これらのほか、新宿未来創造財団で実施している新宿地域活動力パワーアップ講座をはじめとして、ボランティアとなる地域人材の養成にも取り組んでいる。

なお、東京都では、「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を通じて、日常生活の中で外国人観光客への道案内などを行うボランティアを養成している。

(表2) 新宿区が募集している地域活動の一例(「平成30年度新宿区地域活動・地域人材育成事業の案内」(新宿区地域振興部地域コミュニティ課コミュニティ係制作)より抜粋)

事業名	主な活動内容
新宿区防災サポーター	平時は地域での防災訓練及び講演会等の支援を行い、災害時には地域での応急活動や避難所の運営支援等にあたります。
新宿区生涯学習指導者・支援者バンク	新宿区で活動する生涯学習の団体や指導者・支援者と、区内で活動したい方や指導者を探している方をつなぐ、地域人材ネットワークサービスです。
通訳・翻訳ボランティア	主な活動内容は、新宿未来創造財団、区役所、学校など関連団体及び町会など地域団体の行事での通訳、書類の翻訳です。
日本語ボランティア	日常生活に必要な日本語の習得を支援する「新宿区日本語教室」で活動します。
日本語学習支援ボランティア	日本語の初期指導が終了した児童生徒を対象に、教科の学習支援、これに必要な日本語学習の支援を行います。
プラネタリウムボランティア	新宿コズミックセンターに設置されているプラネタリウムを活用した事業の運営、進行補助を行います。
「ふらっと新宿」ジョブサポーター	障害のある方や若年非就業の方などの就労支援を目的とするコミュニティショップで、店舗運営や就労実習のサポートを行う有償ボランティアです。
いつでも体験ボランティア	「ボランティアに興味はあるけど、いきなり活動するのは不安」「ちょっと試しにやってみたい!」という方へ様々な体験メニューをご用意しています。
地域安心カフェボランティア	地域の高齢者や介護者の方などが気軽に立ち寄る「地域安心カフェ」の企画・運営(参加者への支援やカフェの準備・片づけ等)を行います。
家族会・認知症介護者家族会応援ボランティア	介護についての情報交換や日頃の悩みを語り合う家族会の運営を支援します。
子育て仲間づくりサポーター	同サポーターは、養成講座を修了して、子育て支援ボランティアとして互いに協力しながら地域の子育て支援の輪を盛り上げてくださる方です。
食育ボランティア	地域での食育推進活動のお手伝いをさせていただくボランティアです。
道のサポーター	親しみのある美しい道路(区道)づくりに参加していただける方を募集します。活動内容は、提案を尊重しながら区との話し合いで決めます。
公園のサポーター	区民の皆さんと一緒に、安全で快適な使いやすい公園を育てていく制度です。活動内容は、提案に基づいて区との話し合いで決めます。
図書館サポーター	読み聞かせや対面朗読、また家庭配本や書架整理など、図書館のさまざまな活動に、ボランティアとして地域の皆さんに参加していただいています。

資料3 ボランティア部会について

(1) ボランティア部会名簿

部会長	鈴木 章生	目白大学
委員	田中 稔	新宿区町会連合会
委員	久保田 悠介	東京青年会議所新宿区委員会
委員	佐藤 陽一	新宿未来創造財団
委員	吉田 淳子	新宿区社会福祉協議会
委員	渥美 淳子	新宿区立幼稚園PTA連合会
委員	勝部 和彦	新宿区立中学校PTA協議会
委員	李 承珉	多文化共生まちづくり会議委員

(2) ボランティア部会開催実績

回	開催年月日	議題
第1回	平成30年5月14日(火)	ボランティア気運の醸成に向けた自主的な取組みの推進について
第2回	平成30年6月11日(月)	〃
第3回	平成30年7月23日(月)	〃